兵庫県のクワガタムシ(2)

故高橋寿郎氏遺稿集No. 8

兵庫昆虫同好会事務局編

Genus *Prismognathus* Motschulsky,1860

9. *Prismognathus angularis* Waterhouse,1874
オニクワガタ

本種は Waterhouse により G.Lewis の採集した1♀で新種記載された(Ent. Monthly Mag.,XI：6, 1874).

黒沢良彦博士は,産地を Kawachi としているが(1976), 原記載には産地は記入されておらず Japan とのみ記されている.

北海道には多くいる種である.本州,四国,九州ではやや山地性のようで,そうたくさんいる種ではなさそうである.

1975年,黒沢良彦博士は屋久島から新種ヤクシマオニクワガタ *Prismognathus tokui* Y.Kurosawa, 同時に宮崎県青井岳,北九州の長崎県雲仙岳,福岡県英彦山などの高所に分布するオニクワガタの新亜種 *P. angularis morimotoi* Y.Kurosawa を記載した(Mem. Nat. Sci. Mus. No.8：154−160, pl.15).

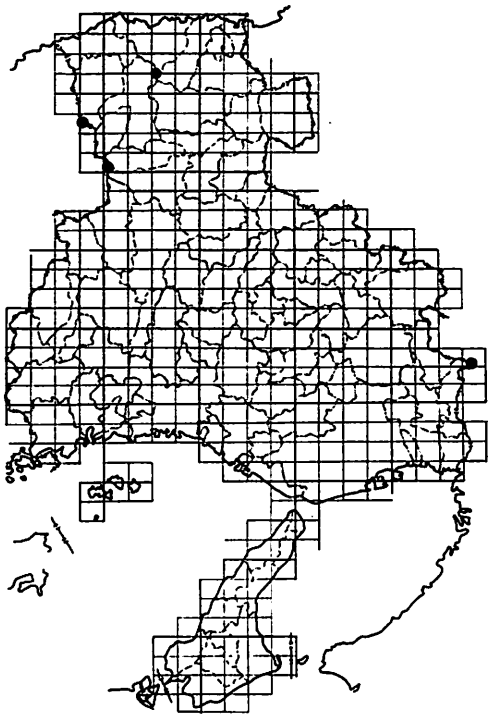
1994年, 水沼哲郎・永井信二は「世界のクワガタムシ大図鑑」(p.237−238)において, *P. tokui* Y.Kurosawa は *P. angularis* の亜種に取り扱うのがよいとした.

本種はブナの朽木の中に生活するようで,その幼虫,蛹については林 長閑博士の報告がある(ニューエントモロジスト Vol.9, No.1/2, p.32−34, pl.,1960).同じ属の *P. subaeneus* (シベリアから北朝鮮に分布)は Medvedev,S.I.の記載がある(Fauna USSR,47：44−45,1952).

兵庫県では北部ブナ帯に分布しているようであるが,川西市の妙見山でも採集されている.六甲山にもブナはあるので,あるいはそのあたりに棲息しているかもしれない.

産地.

川西市妙見山[田中,1987]
城崎郡香住町三川山山頂付近[加野,1983]
養父郡氷ノ山[高橋,1959,1981]
美方郡扇ノ山[辻,岸田,1972, 高橋,1981, 但馬むしの会,1984, 谷角,1985,1988, 足立,1986]



兵庫県におけるオニクワガタの分布

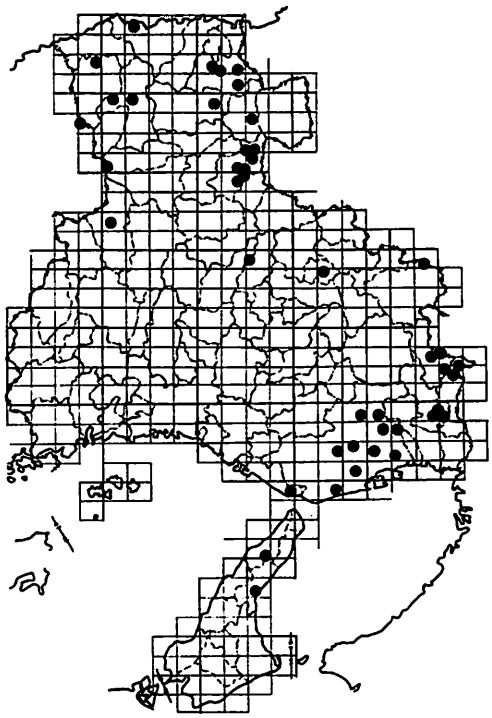
Genus *Prosopocoilus* Hope et Westwood,1845

10. *Prosopocoilus inclinatus* (Motschulsky,1857)
ノコギリクワガタ

本種は Motschulsky によって下田産の標本で *Lucanus* (*Hexarthius*?)属で記載されたものである(Etud. Ent.,XL,p.29,f.11,1957).このタイプ標本は中根猛彦博士が1971年モスコー大学動物学博物館で検している.タイプ標本は♂であるが,体の前部がなかったと記している(1972). Motschulsky は1862, 1865年に *Psalidognathus* 属の種として扱っている(I.C.,p.55,1862., I.C.,p.13,1866).

現在,属名は Hope et Westwood が *Lucanus caviforns* Hope et Westwood,1845 をタイプとして創設した *Prosopocoilus* 属(Cat. Lucan. Coleop.,p.4,1845)の種として扱われている.

本種は大腮の変化が割合あるので,学名についてもいろいろ混乱があったのではと思っていたが,意



兵庫県におけるノコギリクワガタの分布

外と問題はないようである.

Harold が var.*inflexus* として記録したもの(Abh. Naturw. Ver. Bremen, IV,p.288,1875), Thomson が *Cladognathus mandibularis* としたもの(Ann. Soc. Ent. Fr. II(4) : 417,1862), さらに Lewis が *Cladognathus* 属のものとして取り扱ったもの(Trans. ent. Soc. London,p.33,1883)は, いずれも本種のことである.

本種の幼虫ならびに生活史については, 断片的ではあるが林(1956), 越智(1968), 西山(1971)の報文がある. クヌギ, ニレ, コナラ, ヤナギ等に来る. 時に落葉下に隠れているものもあり, 灯火に来ることもある. 県下には広く分布していて, 個体数も多いようである. 神戸市内あたりではミヤマクワガタより多いように思われる. ただし, 多いとっても全般的にはその数を減少しつつあるように思われる. 開発などでその生活の場が失われつつある傾向にある.

産地.

津名郡志筑[堀田,1973], 常隆寺山[堀田,1973, 1976]

川辺郡猪名川町木間生,日生タウン[仲田,1978, 1982], 三草山(1♀,5.VII.1980)[水沼,1991]

川西市笹部, 見野, 山東, 大和, 横地[仲田,1978, 1982]

伊丹市荒牧[河上,1984]

宝塚市南口２丁目[新家,1988], 売布が丘生明町[田中,1992]

神戸市御影[関,1933, 後藤,1940], 摩耶山[増田,橋本,1938], 六甲山(1♂,15.VII.1956), 逢山峡(4♂3♀,1.VII.1986), 烏原(3♂,18.VII.1971,etc.), 山の街(2♂,27.VII.1957,etc.), 藍那(1ex.,28.VII.1993), 五社(1♀,8.VII.1959), 八多町屏風(1♂2♀,22.VII.1953),須磨[戸澤,1936]

明石市明石公園(1♂1♀,15.VI.1978,etc.)

多可郡千ヶ峰[西脇,1965]

宍粟郡音水(1♂,20.VII.1969)

氷上郡[山本,1958]

多紀郡雨石山[Hayashi etc.,1955]

朝来郡和田山町牧田岡,土田,和田,法興寺,柳原,竹ノ内,内海,比治[谷角,1988]

出石郡出石町川原,桐野[高橋,1963,1975,1981]

豊岡市福田[高橋,1975,1981], 三開山,弥栄町,大師山,下陰,中陰[谷角,1988]

城崎郡日高町上ノ郷[谷角,1988]

養父郡氷ノ山(2♂,27.VII.1958)

美方郡扇ノ山[辻,1963., 辻･岸田,1972, 谷角,1975, 岡島･山口,1938, 谷角,1988], 村岡町入江,浜坂町鎧, 村岡町相岡, 温泉町井上[谷角,1988]

Genus *Aegus* Macleay,1819

11. *Aegus laevicollis subnitidus* Waterhouse,1873 ネブトクワガタ

Aegus 属は1819年 MacLeay によって創設された属で, 模式種は *Aegus chelifer* MacLeay である. 同属に含まれる種の多くは, 東洋区, オーストラリア区に広く分布し, 一部が旧北区に及んでいる. 日本の本州に分布しているこの種は *Aegus* 属の北限種である. 本種は Waterhouse によって G.Lewis が日本から持って帰ったいくらかの標本によって命名された(産地の記入はない. Ent. Monthl. Mag.,IX.p.277, 1873).

なお, 記載には「*formosae* に酷似すれど, 点刻がより少なく, 大腮は円筒形を呈し, 基部の小歯は次第に細まらずして急に鋭く突出する. ♀においては *laevicollis* とはっきりした区別点は見られない」と記している. 三輪勇四郎博士は支那原産の *A. laevi-*

collis Saunders(1854) の forma として取り扱った(台湾博物学会々報第23巻, 128/129号,p.367−368, 1933). 現在は亜種として取り扱われている. 同時に三輪勇四郎博士は *formosae* も *laevicollis* の forma としているが, こちらは現在独立種として取り扱われている. また, ともに八重山諸島石垣島にヤエヤマネブトクワガタ subsp. *ishigakiensis* Nomura が野村 鎮によって記載されている(Toho Gakuho, No.10 : 43,1960).

1928年には Didier が奄美大島から亜種アマミネブトクワガタ subsp. *taurrulus* を記載した(Lucanid du Globe,I,p.55).

1976年, 市川敏之・今西 修は, 沖縄本島, 沖永良部島, トカラ列島, 伊豆諸島から4新亜種を記載した. トカラネブトクワガタ subsp. *abei* (Elytra,Vol.3, No.1/2 : 10−11, pl.1,2), ハチジョウネブトクワガタ subsp. *fujitai* (1.C., p.10,12, pl.1,2), オキナワネブトクワガタ subsp. *nakanei* (1.C., p.9,10, pl.,1,2), エラブネブトクワガタ subsp. *tamanukii* (1.C., p.10−11, pl.1,2).

さらに1985年, 市川敏之・藤田 宏は与那国島産亜種ヨナグニネブトクワガタ subsp. *mizunumai* を記載した(Gekkan Mushi, No.170, p.9,11, pl.1,2).
このように南方の島ごとに亜種が記載されている.

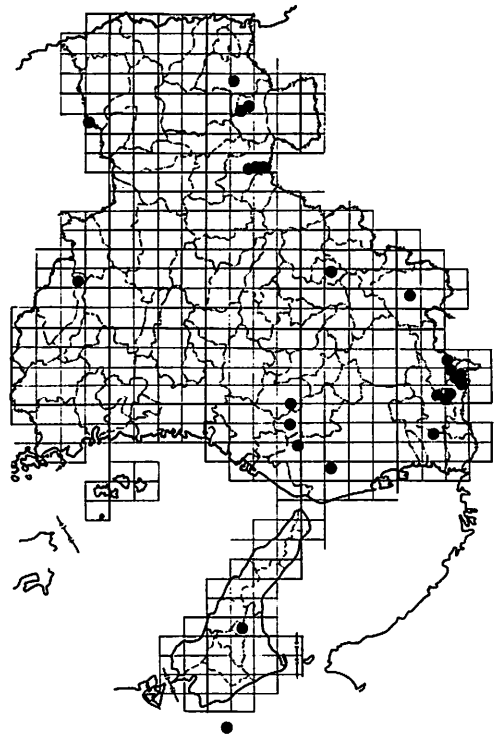
また, 日本産の本属には小笠原諸島母島に *A. ogasawarensis* Okajima et Kobayashi,1975がいる.

本種ははじめに記したように南方系の種であり, 兵庫県では北摂地域に多産することが古くから知られていたが, 最近の開発によって数が少なくなっているようである.

県下の北部方面での産はあまり知られていない. 最近三木市でも見つかっているし, 佐用郡あたりにも記録があるので, 少ないながらも県の中央部から南側には広く分布していると思われる. ただし, 全体的には個体数は減少しつつあるようである.

産地.

三原郡沼島[楠井,1992]
洲本市先山[堀田,1959,1978]
川辺郡猪名川町上阿古谷,内馬場[仲田,1978, 五十嵐,1987]
川西市一の鳥居(2♂2♀,27.VI.1952,etc.), [岡田, 1974], 笹部(3♂1♀,21.VII.1959,Tsukaguchi leg.), 笹部,見野,大和,芋生[仲田,1978,1982], 笹部,岩根山,若宮[五十嵐,1987]
宝塚市売布神社[田中,1992]
西宮市仁川百合野町[田中,1987]
神戸市西区神出町,太山寺[田中,1987]
三木市朝日丘(1♂,16.VI.1980,S.Ogura leg., 高橋, 1981)
小野市山田町(3♂,17.IX.1987)
佐用郡瑠璃寺[1♂,19.VIII.1954,奥谷]
多紀郡篠山(現篠山市)[1♂,XI.1952,奥谷]
氷上郡[山本,1958]
出石郡出石町鳥居,荒木[高橋,1963,1981]
朝来郡和田山町岡田,宮[山崎,1987, 谷角,1988], 柳原,桑原[谷角,1988]
豊岡市栃岡[高橋,1976,1981], 妙楽寺[前平,1987, 谷角,1988]
美方郡扇ノ山[辻,岸田,1972, 高橋,1981]



兵庫県におけるネブトクワガタの分布

Genus *Dorcus* Macleay,1819

12. *Dorcus curvidens binodulosus* Waterhouse,1874 オオクワガタ

オオクワガタは, 茶の産地調査のため中国大陸を旅行した Fortune が採集した標本によって E. Saunders が1854年 *Platyprosapus* 属の種として記録(原産地, 上海[Shanghai], Trans. ent. Soc. Lond.,III,

p.58,1854)したのが最初である．日本からは Harold が *Dorcus hopei* として記録した(Abhandl. Naturw. ver. Bremen,IV,p.287,1985)．Lewis も同じ学名で Kobe, Kyoto, Sendai を産地として記録した(Trans. ent. Soc. London, p.338,1883)．

日本人による一番古い記録は，松村松年博士が北海道から記録したものになるかと思われる(動物学雑誌Vol.6,No.65,p.84−97,1906)．ただこの記録は産地やデータが全くなく，単に学名と和名を羅列しただけのものである(*Dorcus Hopei* Saund. クワガタムシとある)．北海道での記録は現在でもあまりはっきりしたものが知られておらず，確実に分布しているかどうかわからない．

1907年，松村松年博士は「日本千虫図解第３巻(警醒社・東京)」(p.713,図は1906年の第２巻にある……f.35,♂,Vol.II,1906)に説明がある．鈴木元次郎も1923年「通俗昆虫雑誌」に図説している(Vol.1,No.1,p.14, pl.1,f.3)．

三輪勇四郎博士は1927年，"A List of Lucanidae, with description of one new Species (Ins. Mats.,II,1, pp.25−31,1927)"の中で *Dorcus hopei* で記録している．

1929年，趙 福成は「朝鮮産鍬形虫科に就て」(朝鮮博物学会雑誌XII：56−60,pl.3,f.11)の中で朝鮮からオホクワガタ(*D. hopei*)を記録している．

1931年，三輪勇四郎博士は「大日本鍬形虫科の種の研究(4)(Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa,XXI,No. 117,pp.315−325,p.362,pl.I.f.1,2)」において「本邦に広く分布すれど個体数多からず，本種は非常に変異性に富み大小形状の差異著しく，北部印度より支那大陸を経て北方に広範なる分布区域を有す」と述べている．

1933年，加藤正世「分類原色日本昆虫図鑑第８輯・鞘翅目(pl.8,f.4)(厚生閣・東京)」，平山修次郎「原色千種昆虫図譜(pl.61.f.1,1933)(三省堂・東京)」，神谷一男・安立網光「原色甲虫図譜(pl.50,f.4,1933)(三省堂・東京)」などともに *D.hopei* で図説されている．

三輪勇四郎・中條道夫両博士著「日本産鞘翅目分類目録 Pars.2,p.7−9,1936」，昆虫趣味の会調査「全日本産鍬形虫科一覧目録(昆虫界Vol.5,No.45,p.768, 1937)」，平山修次郎「原色甲虫図譜(pl.1,f.1,p.1,1940)(三省堂・東京)」もすべて *D. hopei* で図説，記録されている．このように，戦前はオオクワガタの学名は *D.hopei* のみである．戦後では，1950年中根猛彦博士は「日本昆虫図鑑・改訂版(北隆館・東京)」の中で *D.hopei* で図説(f.3759,p.1303)している．また，中根猛彦博士は1955年，「原色日本昆虫図鑑甲虫篇(保育社・大阪)」において *D.hopei* で図説(pl.28,f.600, 601,p.88)している．

1960年の B.Benesh の W. Junk Coleop. Cat. Supplementa Pars.8, Lucanidea においては *Dorcus hope* Saund, Japan となっている(p.91)．

1960年，野村 鎮は「日本産コガネムシ類目録(Toho Gakuho,No.10,p.39−79)」の中でオオクワガタの学名を *Dorcus curvidens* (Hope) の亜種 ssp. *hopei* (Saunders) とした(p.42)．また，野村 鎮は1963年「原色昆虫大図鑑第２巻(甲虫編)(北隆館・東京)」の中で，*Dorcus curvidens hope* Saunders で図説している(pl.54,f.1,p.107)．

1975年の林 長閑博士の「学研中高生図鑑 昆虫II(学研・東京)」においては *D.curvidens hopei* で図説されている(p.66,201)．

1976年，黒沢良彦博士の「日本産甲虫目録No.1，クワガタムシ科(甲虫談話会・東京)」並びに同博士による「昆虫標本ラベル，日本産クワガタムシ科(月刊むしNo.102,付録,1979)」はともに *D.hopei* として収録されている(p.9)．

永井信二の"Coleopterorum Catalogus, World Lucanidae (Mokuyo−sha,Tokyo,1985)"においては *D. curvidens hopei* で示されている(p.114)．

黒沢良彦博士は1985年「原色日本甲虫図鑑(II)(保育社・大阪)」において *D.hopei* でカラー図説をしている(pl.63,f.1,p.344)．

1986年，市川敏之は「オオクワガタについて(月刊むしNo.165,p.4−12)」において種々の検討の結果，*D. curvidens* の亜種 *hopei* (E.Saunders) を使用することを提唱した．

1988年，岡島秀治・山口 勇は「検索入門クワガタムシ(保育社・大阪)」を出版，その中でオオクワガタを *D.hopei* で図説(p.130−132,146−151)している．

1992年，永井信二による「昆虫標本ラベル：日本産クワガタムシ(カブト刊)」では *D.curvidens hopei* となっている．

1994年，水沼哲郎・永井信二による「世界のクワガタムシ大図鑑(むし社・東京)」において(p.266)，「日本産の亜種名に関しては永らく中国産(基準産地はおそらく福建省)の亜種名である ssp.*hopei* (Saunders) を使っていたが，本書では日本産を中国産と区別できる個体群とみなして別亜種として扱った．日本産の亜種名は G.Lewis の採集品で記載された *binodulus* Waterhouse を使用した．── *binodulus* の基準産地は日本とだけしか記されていない(Ent.

Monthl. Mag.,XI,p.6,1874)」として上記亜種名で示された.

1995年, 吉田賢治による「カラー図鑑クワガタムシ・カブトムシ(p.12,32.78.84.成美堂出版・東京)」, 同じく1996年吉田賢治の「日本産クワガタムシ大図鑑(虫研・埼玉,p.6,62,66−69)」ではいずれも *D.curvidens binodulus* を用いている. 1999年の鈴木知之「日本産クワガタラベル81(松香製作所刊)」のものは *D.curvidens* となっている.

オオクワガタの生態については, 最近のクワガタムシ飼育ブームに関連してオオクワガタの飼育指導書が多く出版されていて, それを見るとオオクワガタの生態もよくわかる. ここにはそのうちの代表的な文献を紹介しておく. これらにはオオクワガタのみならず, ミヤマクワガタ, ノコギリクワガタ, ヒラタクワガタ, コクワガタ, ヒメオオクワガタの生態についても記されている.

吉田賢治 オオクワガタの世界(虫研出版・埼玉, 1990)

吉田賢治ほか オオクワガタの本(虫研出版・埼玉,1994)

小島啓史 クワガタムシの飼育のスーパーテクニック(むし社・東京,1996)

吉田賢治 クワガタムシとカブトムシの飼い方(成美堂・東京,1998)

吉田賢治 クワガタムシを飼う! オオクワガタ飼育大作戦(成美堂・東京,1998)

ワイルドプライド オオクワガタの世界(KUWATA 別冊No.1・愛知県,1999)

兵庫県下では本種は特に川西市笹部付近, 川辺郡猪名川町での産は広く知られており, 現在でも昔のような多産とまでいかなくとも, やはりかなり産する地域である. その他の県下での産は散発的であり, 特に北部, 西部での産はほとんど知られていない. 分布している地域が片寄っているように思われる. 全般に減少しつつある種の一つであろう.

産地.

兵庫県[高橋,1982,1996, 田中,1987].

川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田,1978, 平山,1987, 五十嵐,1987], 仁部[水沼,1991].

川西市見野[仲田,1978], 笹部(3♂,9.VII.1961,etc.), [仲田,1971,1978, 五十嵐,1972,1987, 岡田,1974, 弘世,1978, 平山,1987], 大和,花折橋付近,横地,黒井,芋生[仲田,1978,1982], 多田[芳賀,1974], 能勢三草山[水沼,永井,1994].

宝塚市切畑[田中,1992].

神戸市灘区,西鈴蘭台[芳賀,1958], 烏原(1♂1♀,21.VII.1938).

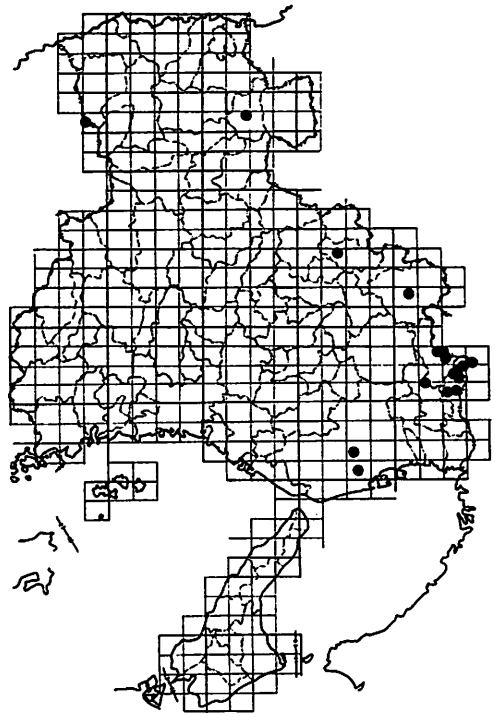
多紀郡篠山町(現篠山市)[鈴木,1958].

多可郡西中裏の林[西脇,1965].

氷上郡氷上町春日部,黒井[山本,1958].

出石郡出石町松ヶ枝[高橋,1963,1981].

美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972, 高橋,1981].



兵庫県におけるオオクワガタの分布

13. *Dorcus montivagus* (Lewis,1883)

ヒメオオクワガタ

本種は G.Lewis により Chiuzenji, Junsai, Nanae (後の2つは北海道)産6♂8♀で *Macrodorcus montivagus* として記載された(Trans. ent. Soc. London, p.337−338,pl.XIV,f.2,♂,1883).

1927年, 三輪勇四郎博士が北海道より *Eurytrachelus ezoensis* として記載されたもの(Ins. Mats., Vol.2,No.1,p.27)は本種のことである.

三輪勇四郎博士は1933年「大日本鍬形虫科の種の研究(4)(台湾博物学会々報Vol.23,No.128−129,pp.353−370,pl.1,f.3)」の中で, その当時 *montivagus* として取り扱われ, 諸種の図鑑に掲載されている種類は総てコクワガタの矮小型であるとして真の「ヒメ

クハガタ」*Dorcus montivagus* Lewis（当時はこの和名が用いられた）を示された．当時の図鑑に図示されたものは次のとおりである．

1933. 平山修次郎　原色千種昆虫図譜（三省堂・東京）pl.61,f.7.
Eurytrachelus montivagus Lewis　ヒメクハガタとして「ナミクハガタに似るも小形」とあるが図からすればコクワガタである．

1933. 神谷一男・安立綱光　原色甲虫図譜　pl.48,f.5.
Eurytrachelus montivagus Lewis　ヒメクハガタとしてコクワガタが図示されている．

1933. 加藤正世　分類原色日本昆虫図鑑第八輯（厚生閣・東京）　pl.3,f.3.
ヒメクハガタ *Eurytrachelus montivagus* Lewis とある．図示されているものから見てコクワガタである．

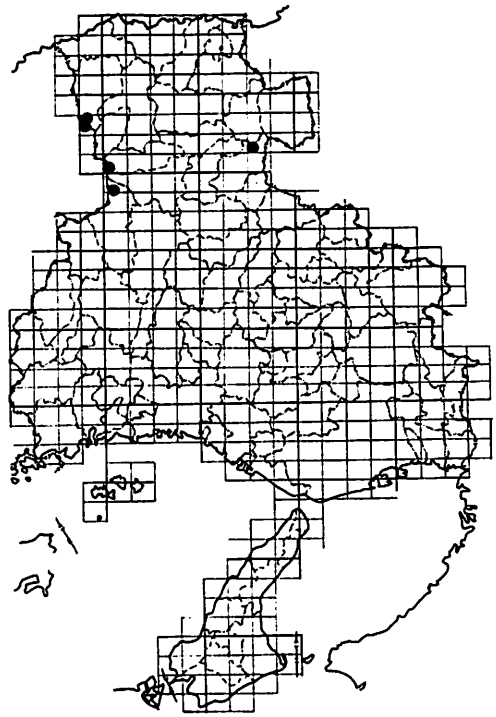
1937. 平山修次郎　原色千種続昆虫図譜　pl.61,f.6,p.128.
ヒメクハガタは図からすればヒメオオクワガタである．1933年出版で図示されたものはクハガタムシの小形種である．「従来ヒメクハガタと称せしものはナミクハガタの矮小形であり，北海道に産するエゾヒラタクハガタとせられしものはヒメクハガタとすべきことが明らかとなり，学名も上記のごとく訂正せられたり」として *Dorcus montivagus* で図説されたものは立派なヒメオオクワガタの♂の図である．

1940. 平山修次郎　原色甲虫図譜（三省堂・東京）pl.17,f.6,p.38.
同上．立派な岩手県産1♂を図示されている．

戦前は *Dorcus montivagus* ヒメクハガタで推移したが，1950年出版の日本昆虫図鑑改訂版において中根猛彦博士は *Dorcus montivagus* にヒメオオクワガタの和名を示した（p.1303）．1955年の原色日本昆虫図鑑甲虫編（保育社・大阪）において中根猛彦博士は *Dorcus montivagus* ヒメオオクワガタとしてカラー図説（pl.28,f.602,603,p.88）し，これ以後ヒメオオクワガタの和名が用いられるようになった．

1960年，野村 鎮・黒沢良彦博士は，*Eurytrachelus rubrofemoratus* アカアシクワガタをタイプに *Nipponodorcus* 属を創設した（Toho Gakuho,No.10,p.41）．その際ヒメオオクワガタもこの *Nipponodorcus* 属の種に取り扱われたが，現在は再び *Dorcus* 属の種として取り扱われている．

日本全土に産するが，九州に産するものは亜種 *subsp.adachii* Fujita et Ichikawa とされる（Gekkan Mushi,No.193,pp.17−20,1987）．



兵庫県におけるヒメオオクワガタの分布

県下においては但馬地方にのみ分布しているようである．扇ノ山あたりでは個体数を多く産した時期があったようであるが，近年の開発で個体数は減少しているのではないかと思われる．

産地．

宍粟郡坂の谷［1♀,22.VII.1979,S.Ogura leg.］．
朝来郡竹ノ内［谷角,1988］．
養父郡氷ノ山（1♀,12.VII.1963,M.Yoshizawa leg, etc.），［高橋,1981, 田中,1987, 谷角,1988］．
美方郡扇ノ山（1♂1♀,T.Takahashi leg.），［辻,1963, 辻.岸田,1972, 高橋,1981, 但馬むしの会,1984, 谷角,1985,1988, 岡島,山口,1988］，畑ヶ平［足立, 1987, 田中,1987］．

14. *Dorcus titanus pilifer* (Snellen van Vollenhoven, 1861)　ヒラタクワガタ

Siebold が日本で採集した2♂標本で Snellen van Vollenhoven が *Dorcus pilifer* として記載したものである（Tijdschr., Ent.IV, p.112,t.6,f.4,1851）．このタイプ標本はオランダの Leiden自然史博物館にあり，

中根猛彦博士はその2♂とも写真にとって示された(北九州の昆虫Vol.26,No.1,p.1−2,pl.1,1979). 原記載に描かれたものはそのうちの大きな方であるとのことである.

茶の産地調査のために支那大陸を旅行した Fortune の採集によるものを材料として Saunder が記載した *Platyprosapus platymelus* を, Harold は Lenz の採集品による甲虫類の報告の中で, *Eurytrachelus platymeleus* であるとして Hiogo より記録した(Lenz は神戸在住の商人であるから Lenz の採集したものは Hiogo−神戸産のものであると考えられる)(Abhandl.Nat. Ver. Bremen,IV,p287,1875).

Saunder は *P.platymelus* の記載と同時に *Dorcus lateralis*, *D. obscurus*, *D. marginalis* を中国から記載したが, 総て同一種の個体変異と考えられる.

なお, 最初に記載された *lateralis* は *D.lateralis* Dejean,1837(=*Serrognathus bucephalus* Perty,1831)に与えられ, 次に記載された *platymelus* がこれらの種を記載する有効名となる(Trans. ent. Soc. Lond., 1ser.III,p.50,t.3,f.7,1854).

E.platymelus はその後 Heyden が Hiogo から記録しており(Deut. Ent. Zeit.,XXIII,p.838,1879), Lewis は日本から記録した(Trans. ent. Soc. London,p.333, 1883). 同時に Motschulsky が対馬から記録した *Serrognathus castanicolor* (Etud. Ent. p.12,♂,1861)を本種と同一種に取り扱った(Motschulsky の記録は新属, 新種であり, 現在 *D.titanus* の亜種として取り扱われている).

1920年, R.Kriesche はスマトラ, ボルネオから知られている *Eurytrachelus titanus* Boisduval,1835 の地理的変異について論じ, *platymelus* (中南支), *consentaneus* (中北支), *pilifer* (日本)をそれぞれ *titanus* の亜種として *castanicolor* を日本産 *pilifer* の異名とした(Arch. Natargesch, A. LXXXVI,1920,p.117).

三輪勇四郎博士は日本, 朝鮮, 琉球, 台湾, 支那, インド産を全て *E.platymelus* に統一し, 亜種の扱いもしていない(台湾博物学会々報Vol.23,No.128,129, p.356−357,pl.2,f.1−11,1933). このように, 戦前のヒラタクワガタは *E.platymelus* が使用されていた.

1960年, Benesh は *consentaneus*, *platymelus* を *titanus* の亜種として *castanicolor*, *pilifer* を *platymelus* の異名としている(W.Junk Coleop. Cat. Suppl. Pars.8,p.86−88).

中根猛彦博士は1955年出版の原色日本昆虫図鑑・甲虫編(保育社・大阪)の中で, 本種を *Eurytrachellus titanus platymelus* としてカラーで図示している(pl.27,f.587,588,pl.86).

野村 鎮は *Dorcus* (*Serrognathus*) *titanus* の亜種に扱った(Toho Gkuho,No.10,p.42,1960).

黒沢良彦博士は♂交尾器が異なることから, インドからスマトラ, ボルネオなどにかけて分布する *titanus* Boisduval,1835 とは異なり, 従来用いられていた *platymelus* Saunders,1854 を種名とした(国立科学博物館報第3号,p.292,1970).

さらに1976年の日本産甲虫目録No.1,クワガタムシ科においては *Serrognathus platymelus pilifier* (Snellen van Vollenhoven) においてもそのまま使用(pl.62,f.1,p.434,1985)した.

1963年の野村 鎮による原色昆虫大図鑑II(甲虫編)では *Dorcus titanus pilifer* として図説され(pl.54, f.2,p.107)現在の学名が使用されている.

水沼哲郎・永井信二の「世界のクワガタムシ大図鑑(pl.162,f.403−39〜43,p.269,1994)」(むし社・東京)においてもカラー図説の中でこの学名が使われている.

本種には日本産として次のような亜種が知られている.

subsp. *castanicolor* Motschulsky,1861 ツシマヒラタクワガタ
Distr. Japan (Tsushima), Korea, S.Manchuria

subsp. *daitoensis* Fujita et Ichikawa,1986 ダイトウヒラタクワガタ
Distr. Japan (Minamidaito−jima, Kitadaito−jima)

subsp. *elegans* (Boileau,1899) アマミヒラタクワガタ
Distr. Ryukyu Is.−Amami group.

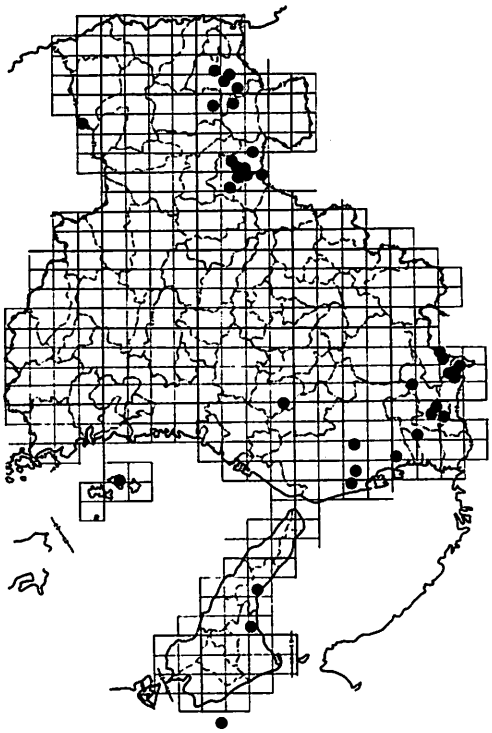
subsp. *hachijoensis* (Fujita et Okuda,1989) ハチジョウヒラタクワガタ
Distr. Hachijo−jima

subsp. *okinawanus* (Kriesche,1922) オキナワヒラタクワガタ
Distr. Okinawa−honto, Kume−jima, Minami−Daito−jima, Ie−jima, Kouri−jima

subsp. *okinoerabuensis* Fujita et Ichikawa,1985 オキノエラブヒラタクワガタ
Distr. Okinoerabu−jima, Amami Is.

subsp. *sakishimanus* (Nomura,1964) サキシマヒラタクワガタ
Distr. Ryukyu Is., Yaeyama group, Yonaguni−jima

subsp. *takaraensis* Fujita et Ichikawa,1985 タカラヒラタクワガタ
Distr. Takara−jima−Tokara Is.



兵庫県におけるヒラタクワガタの分布

subsp. *tokunoshimaensis* Fujita et Ichikawa,1985 トクノシマヒラタクワガタ

Distr. Tokunoshima, Yoron-jima

本州，四国，九州に分布している亜種 *pilifer* は，本州では関東以西の西南日本に割合産するが，関東地方では希少となり東北地方の大部分には産しないとのことで，南方系種の様子がうかがえる．

兵庫県下では分布は広く，北部の山地帯あたりでも記録はある．ただ，最近は個体数がやや減少している傾向がうかがえる．

産地．

三原郡沼島[楠井,1992].

洲本市安乎町[堀田,1973].

津名町志筑[堀田,1959,1973,1976].

川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田,1978], 三草山(1♀, 8.VI.1980).

川西市一庫,山原,見野,笹部,横地,大和[仲田,1978].

伊丹市荒牧[河上,1984], 園田,宝塚[水沼,永井, 1994].

宝塚市南口２丁目[新家,1988], 大原野,売布が丘, 南口２丁目[田中,1992].

西宮市角石町[芦田,1983].

Hiogo[3♂2♀,Heyden,1879].

神戸市御影[関,1933], 烏原(1♂,22.IX.1939.etc.), 山の街(1♂,23.IX.1954,etc.), 長田(1♂,16.VII. 1938)

小野市山田(1♂,22.VII.1987).

飾磨郡家島[上田,1981, 楠井,1992].

多可郡寺山[西脇,1965].

朝来郡和田山町林垣,立原,竹田殿町,柳原,桑原,内海,寺谷[谷角,1988].

出石郡出石町三木[高橋,1963,1981], 山東町宝山[谷角,1988].

豊岡市愛宕山,立野[高橋,1975,1981], 三開山,大師山,妙楽寺,中陰[谷角,1988].

城崎郡日高町上ノ郷[谷角,1988].

美方郡扇の山[辻,1963, 辻,岸田,1972, 高橋,1981].

15. *Dorcus rectus* (Motschulsky,1857)

コクワガタ

本種は Motschulsky により日本から1♂をもとに *Macrodorcus rectus* として新種記載された(Etud. Ent.,6,p.28,1857). このタイプ標本はモスコー大学動物学博物館に保管されていて，これを検した中根猛彦博士は中型の♂標本であると記している(1972).

本種は形状及び大小の差異が多様である関係で，古来から幾多の異名が知られている．体色が赤味がかるものに *Macrodorcus rugipennis* という学名が与えられた(Etud. Ent.p.16,♀,1861)が，このタイプ標本もモスコー大学動物学博物館に保管されていて，小さい型の♂であるという(中根猛彦博士,1972).

それから Snellen van Vollenhoven が *Dorcus nipponensis* として記載した種(Tijdschr Ent.IV,p.113, t.7,f.3,1861)は，三輪勇四郎博士が「大腿の中歯の上になお１個の小歯の出でたる」として forma *niponensis* の扱いをした(1933)が，実はこれはスジクワガタの大型の♂であることが山本 弘によって指摘され(新昆虫5巻12号，p.40, 1952)，スジクワガタのシノニムとして考えられていたが，Vollenhoven の記載の図と，さらにオランダの Leiden 自然史博物館でタイプ標本を検した中根猛彦博士は *rectus* の小形の♂であることを示した(北九州の昆虫26巻1号, p.1-2,pl.1,1978).

さらに長い間 Motschulsky が *Dorcus binervis* として命名記載(Etud. Ent.9,p.16,1860)されたものがスジクワガタのシノニムとして考えられていたが，このタイプ標本を検した中根猛彦博士は *rectus* の

♀であることを確認発表している(1972).

松村松年博士が日本千虫図解に本種の小型のものを *M.montivagus* Lewis ヒメクワガタとして掲載したことから，ヒメクワガタなる種が誤って報告された時期があった．三輪勇四郎博士は *rectus* を *Eurytrachelus* 属に取り扱っている(1933).

黒沢良彦博士の目録(1985)，石田正明，松岡昌介の目録(1988)，並びにこの頃には *Macrodorcus* 属の種として扱われてきたが，現在では *Dorcus* 属に扱われている.

生活史は小島啓史の「クワガタムシ飼育のスーパーテクニック」(むし社・東京,1996)に詳しく出ている(p.30−47).

本種は全国的に普通に見られる種であり，兵庫県下においても普通に見られる.

産地.

三原郡沼島[楠井,1992].

洲本市先山[久松,1973, 堀田,1973,1976], 安乎町[堀田,1973].

津名町常隆寺山[堀田,1992].

川辺郡猪名川町木間生,上阿古谷[仲田,1978]，一庫,民田[水沼,1991], 三草山(1♂2♀,5.VII.1980).

川西市一の鳥居(1♂,22.VI.1952,etc.)，見野,笹部,花折橋付近,横地,山原,芋生,大和[仲田,1978,1982]，能勢妙見山(1♀,30.VII.1982)，能勢町民田[水沼,永井,1994].

伊丹市[河上,1984].

宝塚市佐曽利(1♂,−.V.1983,Y.Hachitani leg.)，南口２丁目[新家,1988]，武庫川町,武田尾駅,売布が丘[田中,1992].

西宮市船坂(1♀,4.IX.1987).

Hiogo[4♂6♀,Heyden,1879].

神戸市裏山[関,1934], 御影[関,1933], 二十渉(1♀,26.VI.1955)，烏原(1♂,3.VIII.1974,etc.)，大池(1♀,22.VII.1938)，藍那(1♂3♀,26.VIII.1993,etc.)，白川(1♂,22.II.1979)，押部谷町木見(1♀,20.VII.1980,etc.)，木津(1♂,28.VIII.1984)，逢山峡(1♂,28.VII.1987,etc.)，西区寺谷(1♂2♀,24.IX.1993).

三木市美嚢川川原(1♂,28.VIII.1978,etc.)，口吉川町(1♂1♀,14.VII.1986).

小野市大上(1♀,8.VII.1987)，山田(1♂1♀,17.IX.1987,etc.).

加東郡社町三草(1♂,22.V.1989).

加西市畑(1♀,29.VI.1974,etc.).

多可郡三谷(1♀,13.IX.1975)，鳥羽(1♂,8.V.1976,etc.)，鹿野[西脇,1965].

神崎郡大河内町川上(1♀,6.VIII.1977).

飾磨郡家島[上田,1981, 楠井,1992].

揖保郡新宮町福原(1♀,3.IX.1992).

赤穂市生島[相坂ほか,1995].

相生市三濃山(1♀,6.VII.1973).

佐用郡大撫山(1♀,13.III.1976).

宍粟郡水谷(1♀,17.VII.1981)，音水(1♀,20.VII.1959,etc.).

多紀郡篠山町(現篠山市)[鈴木,1958], 雨石山[Hayashi etc.,1995].

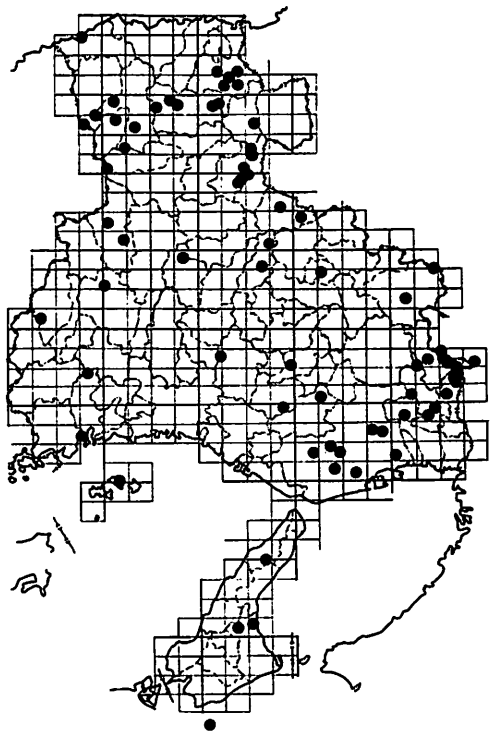
氷上郡[山本,1958].

出石郡出石町桐野[高橋,1963,1975,1981]，山東町[谷角,1988].

朝来郡和田山町竹ノ内,玉置,枚田岡,比治,柳原,寺谷,内海,桑原[谷角,1988].

城崎郡日高町西芝[高橋,1975,1981]，上ノ郷,名色,栃本[谷角,1988]，三草山,蘇武岳[高橋,1981].

豊岡市立野[高橋,1975,1981],弥栄町,大師山,妙楽寺,三開山,下陰[谷角,1988].



兵庫県におけるコクワガタの分布

養父郡氷の山(2♀,2.VIII.1953,etc.), 村岡町相岡[谷角,1975,1988], 広谷,別宮[谷角,1988].
美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972, 谷角,1985], 兎和野,小代渓谷,浜坂町城山,温泉町村上,肥前畑[谷角,1988], 浜坂町城山[黒井,1995].

16. *Dorcus rubrofemoratus* (Snellen von Vollenhoven,1865) アカアシクワガタ

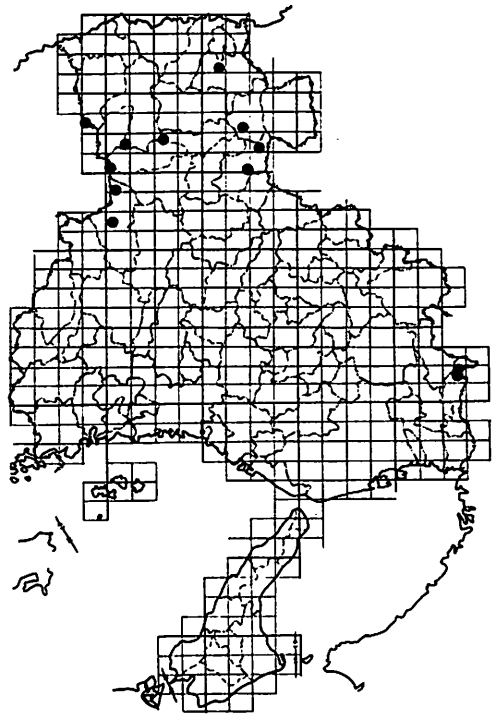
Siebold 及び Burger が日本で採集した2♂2♀の標本によって *Eurytrochelus rubrofemoratus* として Snellen van Vollenhoven によって新種記載された種である(Tijdschr. V. Ent. 8:152, pl.2-f.1,2,1865). このタイプ標本はオランダの Leiden 自然史博物館に保管されていて, 同博物館を訪れた中根猛彦博士は写真を撮り紹介している(1979). また, 同博士は Motschulsky が *Macrodorcas rectus* として発表(Etud. Ent. 10:16,1861)した♀標本をモスコー大学動物学博物館で検し, この標本は *rubrofemoratus* の♀であったと報告している(1972).

Lewis は日本各地産を *Macrodorcus* 属の種として報告した(Lake of Hakone, Chiuzenji, Kiushiu on Oyayama. Trans. ent. Soc. Lond.,p.337,1883).

朝鮮からは河野広道が記録した(Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa XVI, No.84, p.88,1926). 三輪勇四郎博士は台湾から記録(Ins. Mats., Vol.II,No.1,p.29,1927)したが, その後の報告(Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa Vol.23, No.128.129,p.361,1933)で, 腿節が赤色を呈せず肢全体黒色を呈せる種で, いずれも♀ばかりなので種の決定をなし得ずと記している. 加藤正世博士は *Eurytrachelus* sp. タイワンアカアシクワガタとして原色で図説した(分類原色日本昆虫図鑑, 8輯, pl.7,f.2,1933). これも肢に赤味がないと記している. 形態とも合わせてともに三輪勇四郎博士が1937年記載した *Macrodorcus yamadai* (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, Vol.37,No.166,p.166-168)のことであろうと考えられる.

千島列島(国後島)からは桑山 覚博士の記録がある(南千島昆虫誌,p.338,1967).

ビルマに産する *Hemisodorcus arrowi* Boileau (Trans. Ent. Soc. London, p.49,1911), 中国, 朝鮮に産する *Eurytrachellus haitschunus* Didier et Seguy (Rev. Fr. Etud. Vol.19,No.4,p.227,fig.5,1952)の2種は本種のシノニムと見なされているが, 黒沢良彦博士によると *arrowi* は本種の亜種と考えてもよいとのことである(1930). ともに標本がないのでなんともいえない.



兵庫県におけるアカアシクワガタの分布

以上のように分布の広い種のようであり, 日本の全般に分布している種である. 1960年, 本種をタイプとして野村 鎮, 黒沢良彦博士により *Nipponodorcus* 属が創設された(Toho Gakuho,No.10;41)が, 現在では *Dorcus* 属の種として扱われている.

兵庫県では中央部から北に広く分布しているが, 南部の海岸線に近い地域にはほとんど見出されない. 川西市あたりでも個体数は少ないようで, 県下においては北方種である. 氷ノ山山麓あたりでは個体数は極めて多い. 生態については小島啓史のものがある(1996).

産地.

川西市笹部, 大和[仲田,1978,1982].
宍粟郡音水(1♂,11.VII.1978). 坂の谷(1♀,22.VII.1979,S.Miki leg.).
多可郡寺山[西脇,1965].
朝来郡和田山町柳原, 竹ノ内[谷角,1988].
出石郡出石町和尾[高橋,1963,1981].
豊岡市中嗔[高橋,1963].
養父郡氷の山(31♂14♀,25.VII.1955,etc.).[高橋,1981]. 八鹿町妙見山, 関宮町栃岡.

美方郡浜坂町諸寄[高橋,1976,1981]. 扇ノ山[辻,1963, 辻·岸田,1972, 谷角,1985,1988], 鉢北高原[谷角,1985].

17. *Dorcus striatipennis* (Motschulsky,1861)
スジクワガタ

本種は Motschulsky により Yeso 産で *Macrodorcus striatipennis* と新種記載されたものである(Etud. Ent. 10 ; 17,1861). このタイプ標本は中型の♂で上翅に弱い点刻条線を有すると中根猛彦博士は述べている(1972). Lewis は Oyayama and Tanegashima から記録した(Trans. Ent. Soc. Lond.,p.333, 328,1883).

Motschulsky が *M. cribellatus* として記載したもの(Etud. Ent.10 ; 17,1861)も小型の♂で上翅上に深い条線を有するものである(中根,1972).

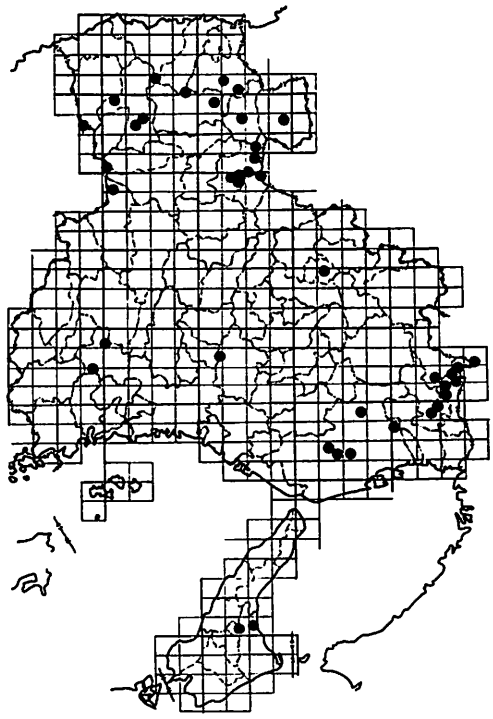
また, Waterhouse が Hakodate から記載した *M. opacus* も本種のことである(Ent. Monthly Mag.,VI : 208,1870). 三輪勇四郎博士は *Eurytrachellus* 属で扱っている(1933).

野村 鎮は, Motschulsky が *Dorcus binervis* として記載した(Et. Ent. X,p.16,♀,1860)ものの学名を本種に充てた(Toho Gakuho No.10,p.41,1960)が, 現在は *Dorcus* 属の種として扱われている.

本種も県下に広く分布しているようであるが, 個体数は必ずしも多くない.

産地.

洲本市先山[堀田,1959,1973,1976], 安乎町[堀田,1973].
川辺郡猪名川町肝川[仲田,1978,1982]
川西市一の鳥居(1♂,22.VI.1952,etc.)[仲田,1970], 見野,笹部,横地,芋生[仲田,1978,1982], 赤松[水沼,永井,1994], 能勢妙見山(1♀,30.VII.1982).
宝塚市武庫川町,南口２丁目[新家,1988], 売布が丘,南口２丁目[田中,1992].
神戸市裏山[関,1934], 六甲山(1♀,29.VIII.1951, 1♂,10.VII.1955), 藍那(1♂,19.VIII.1978,etc.), 鈴蘭台大山公園(1♂,5.VII.1990), 木津(2♂,28.VIII.1984), 八多町屏風(1♂,2.IX.1993,etc.).
加西市畑(1♀,27.VII.1974).
揖保郡新宮町福原(6♂,17.VII.1992,etc.).
多可郡寺山[西脇,1965].
相生市三濃山(1♀,8.VI.1974).
宍粟郡坂の谷(2♂6♀,22.VII.1979).
氷上郡[山本,1958].
出石郡但東町,出石町カジヤ[高橋,1963,1981].
山東町宝山[谷角,1988].
豊岡市神武山,市内,文教府,長谷[高橋,1975], 妙楽寺[高橋,1981, 谷角,1988].
朝来郡和田山町比治,枚田,桑原,法興寺,宮,内海,竹ノ内,柳原[谷角,1988].
城崎郡日高町上郷,大岡山,香住町三川山[谷角,1988].
養父郡氷の山(1♀,25.VIII.1955,etc.).
美方郡扇ノ山[辻,1963, 辻,岸田,1972, 谷角,1988], 村岡町相岡[谷角,1975,1988], 兎和野,輝山[谷角,1988].



兵庫県におけるスジクワガタの分布